

ゆるり

公式 HP



第 5 号

主な活動拠点が東京近郊であるカンパニーの活動は児童劇や一般公演、高齢者施設等でのレクリエーション、その他イベント活動や MC 等様々です。それらの活動内容紹介のための不定期発行の広報紙です。

お芝居やさん鈴木 KE 企画カンパニー情報紙 発行年月：2025 年 09 月

発行：お芝居やさん鈴木 KE 企画カンパニー 制作部

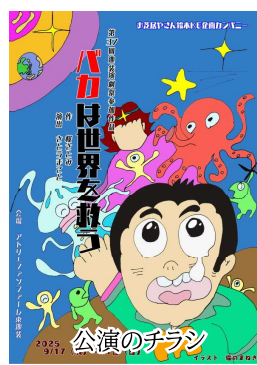
お芝居やさん鈴木 KE 企画カンパニーホームページ：https://suzukikeikaku.com

池袋演劇祭参加！

第三十七回池袋演劇祭が、二〇二五年九月二日～十月二日にかけて、開催される。平成元年より地域密着型の演劇祭として実施されているが、今回初めてカンパニーも参加する。

昨年、劇場の下見に行ったメンバーが、「この劇場面白い！」と興味を持った「アトリエファンファーレ東池袋」にて、九月十七日～九月二十一日の五日間公演を行うこととなった。

演目は、桜さとしが本公演に書き下ろした脚本「バカは世界を



救う」。演出は、北海道と東京の二拠点生活を謳歌(?)しているさとうまこと。カンパニーメンバーに五人のゲストを加えて池袋の舞台に挑む。舞台は現代。ゲーム三昧の主人公の前に突如宇宙人が現れ、「この星を救ってくれ!」

バカなお前ならできる!」とお願ひされるが、言っていることは失礼極まりない。無気力だった男が巻き起こす痛快冒険ストーリーだ。

今回の劇場は少し特殊な造りなので、舞台をどう見せるかが演出や舞台監督の腕の見せ所になりそう。

ただ、一つ気を付けて欲しいことがある。本公演の予約だが、通常の劇団主催の時とは予約方法が異なっている。池袋演劇祭のホームページにある予約フォームからの申込みとなるので分かりにくいかもしれない。

である。初めての劇場になるので、その内部の説明、また演劇祭の審査のための特別チケットなるものがあるそう。受付での注意事項など初めての事が色々あった。その他には今後のための提案が各自から出された。今年の九月公演から後の話になるが、杉並区で何回か公演を行う予定になりそうだ。また、二〇二六年には第二世代を中心としたリバーシブルが、新作を計画している。まだまだ先であるが、二〇二七年に

下半期総会開催

帽子も日傘も無い状態で戸外を歩いていたら数十分で倒れそう。七月二十日。雲一つないと言っていいような青空が広がる中、カンパニー恒例の総会が開かれた。九月公演の演出の佐藤は、二回で北海道からの参加。他のメンバーは会場にほぼ集まった。今回の主な議題は、やはり演劇祭参加に関する連絡事項。



総会の様子



北海道は快晴です!

そして、東京並みの気温...

は、カンパニーの過去の作品の上演もありそう。これらの話以外にも、面白い配信等の計画も動きそうである。

昨年、第二世代の公演のみで、高校公演を除き、カンパニーの昭和世代も参加する公演は二年ぶり。ゲストメンバーも個性を發揮して稽古に励んでいる。公演初日まで半月を切っているが、役者のやる気も最高潮となっている。役作りでムキムキとなった者、スリムになった者、ブニブニになった者、それぞれの演技を楽しんで貰えば幸いである。



集合!

会場でお待ちしております!



初顔合わせ

朗読「注文の多い料理店」

今年度の試みの一つとして、青空文庫の朗読を収録した。まずは、一人で読むというより数人で役を分けて出来そうな作品を青空文庫から探してみた。その中でも、カンパニーのカラーを生かせるような作品として、初回収録作品は宮沢賢治作「注文の多い料理店」を選んだ。

児童劇では動き回って元気な姿を見せる若者たちも声だけの演技は勝手が違う。また、収録中には気付いてなかった周囲の音をマイクが意外と拾っていて、収録も編集も試行錯誤。当初、春ごろにサクッと収録してしまおう的な予定がずれて、込み、加えて六月から既に猛暑が続いてしまっている中、エアコンの音にドキドキしながらの収録となった。

現在、収録後の編集。そのうちにこっそりホームページにアップするので、いつもと少し違う五人の演技を楽しんでほしい。



収録の様子



◆ 今後の活動予定 ◆

- 9 月 NHCハーモニカコンサート
イベントスタッフ
- 10 月 池袋演劇祭参加
他劇団公演
花と緑の井草祭り
イベントスタッフ
- 11 月 荻窪音楽祭
仲田ハーモニカコンサート
杉並会館ファッションショー
杉並区ふれあいフェスタ
東急沿線ハーモニカコンサート
イベントスタッフ
- 1 月 西荻東銀座商店街
イベントスタッフ
- 3 月 中学校朗読発表会

※児童劇活動については不記載

児童劇、イベントスタッフ、MC 等のご相談は

お芝居やさん鈴木 KE 企画カンパニー

お問い合わせはこちら

e-mail s-masaya@f5.dion.ne.jp

Tel 03-3395-6394

携帯 090-1819-2216

お芝居に興味ありませんか?

児童劇・一般公演等に出演してみたい方募集中!

公式 SNS : Facebook、X(旧 Twitter) やってます。

検索

お芝居やさん



カンパニー すべしゃる

連日の猛暑が続いているなか「ゆるり」も2年目に入り、カンパニーの活動も増々充実。9月中旬には2年ぶりの全体公演が待ち構えている。
今回は第二世代の役者紹介と、闘病中の寿崎の様子をお知らせする「ちひろの縁側日記」を掲載しました。

2025年09月



役者紹介



山崎真太
やまざき まこと

・役者になろうと思ったきっかけは？

高2の時、今まで興味がなかったアニメを見始めて、当時は自分に自信を持てなかったんですけど、映ってた主人公みたいになりたいって思ってた。優志望で専門学校に行くことに決めましたね。

ちなみにアニメの世界に僕を引き込んだのは、カンパニーメンバーの藤本龍也なんですけど、高校、専門、お芝居やさんと長い付き合いになったもんです（笑）

・鈴木 柰との出会いを教えてください。

専門学校に通っていた頃、劇団新芸座さんという劇団に客演させて頂いてました。その時共演した三本隆さん（セカンド、幸せのかたち等出演）に紹介して頂きまして、朗読公演に出演したのが最初になります。



朗読公演の頃

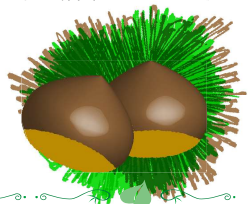
・鈴木 柰のお芝居に出るようになって何年くらいになりますか？最初の役目と役も教えてください。

当時はまだカンパニーではなかったですね。二〇一五年の十一月のパフォーマンス朗読で二作品出演させて頂きました。セカンドでは健二役。寒い夜のピザでは圭一役。お芝居を始めたばかりで初の朗読でめちゃめちゃ緊張してましたね。

・今まで関わってきたお芝居で一番好きな演出は？また、自分が演じた役で一番やりがいがあったものは？

好きな演出は「アンネの日記」です。鈴木 柰の事をまだ知らない頃で

上げ友人に誘われて参加した。内監督等
立ち上がり友人に誘われて参加した。内監督等
立ち上がり友人に誘われて参加した。内監督等



僕の俳優デビュー作になります。機会があればもう一度演じてみたい作品。鈴木 柰なら「うつきょう」です。

朗読、舞台とカンパニーになってからメンバーと共に一番大きく変化してきた作品だと思います。

やりがいと言うと昨年十一月「お芝居やさんリバイシプロジェクト」公演の「歪んだグ

ラスで、哀を知る」です。カンパニーの先輩の手を借りず一から作

った舞台でした。サスペンスの犯人役をや



サスペンスの犯人役

・カンパニーの魅力は何だと思う？

人だと思えます。

お芝居が大好き過ぎる仲間が集まって来て、家族にも似た関係性があるなと感じます。

役者として右も左も分からなかった十年前、僕を根気良く育ててくれたもう一つの家族だと思います。あとは劇場や体育館はもちろん、公民館や遊戯室等お客さんがいれば、セットも照明もなかったとしても劇場に変えてお芝居をやっちゃう所です。

お芝居をやる機会だけが欲しくて欲しくてしょうがない僕たちだから出来る事。沢山の人の見てもらいたいんです。

・今後の役者としての目標は？

演者として作品のメッセージを届ける事。舞台監督として出演者が全力で

ちひろの縁側日記

カンパニーの鈴木と桜は、月二回ほど神奈川の寿崎宅を訪れている。桜が仕事でマッサイジをしているので、闘病生活をしている寿崎の気分転換も兼ねて、身体をほぐしに行っているのだ。

ほぼベッドで過ごす時間が長えはいるものの、リハビリも頑張っており、筋力も少し出てきていて、声も少し出せるようになってきた。先日、稽古に参加した時はちゃんと台詞が言えて、周りをびっくりさせていた。家では上手く言えてなかったそうなので、やはり、そこは女優魂なのだろう。日々楽しみになっているのは、施術日に桜たちに会える事と稽古なのだそう。

身の危険を感じるほどの最近の猛暑のため、お散歩などはすっかりお預けになっているようだが、室内での楽しみも増えた。最近はお風呂で見る「名探偵コナン」や「華大さん」と千鳥君」がお気に入りだ。

九月の公演では映像で出演する。また、劇場の客席からも公演を見る予定である。公演が終わる頃には秋めいてくるので次号ではお散歩話かも？



食欲旺盛！



至福の時...



5月の客演の時

お芝居を表現出来る空間を作ること。これから生まれてくる子どもたちから亡くなった先人たちまで楽しめるお芝居が出来るように、もっと上手になりたいです。

昭和の手箱 時代

二〇二五年は昭和元年からちょうど百年にあたる年ですね。



「昭和」と言えば色々あります。出せばキリが無い程、何について語れば良いか分からないくらい...
自分が昭和を生きて来て、これって昭和？と思う事を書きたいと思います。私の成長に合わせてお話ししますね。

幼児・低学年
テレビで「コメットさん」と言う主人公がバトンを使って魔法をかけます。私のコメットさんは、大場久美子さんの時代です。凄く憧れていて、好きな男の子に魔法をかけるマネして笑われた事を思い出します。

小学生の頃
友達と遊ぶ時に〇〇ちゃんのお家に行き、玄関前で大きな声で「〇〇ちゃん遊びましょう」と言っていたけど、今はしてるのかな？

中学生の頃
下敷きがクリアファイルみたいなので、ファイルの中に自分の好きなアイドルの写真を入れてました。当時は明星、平凡といった雑誌を買い、それを切り抜いて友達同士で見せっこをしてました。

高校生の頃
カセットテープ黄金時代です。良く洋楽を聞いては録音をしていました。あと、ディスコプリームで放課後に友達と振り付けを考え、新宿の「B&B」、「ニューヨークニューヨーク」というデイスコに通っては踊っていました。

十八歳、パブル時代（昭和六十年代から平成三年頃）はずっと劇団に入って旅公演をしていました。一年間に六七作品をやり、東京に殆どいない時期を過ごしていたように、演劇鑑賞会をしたの学校も当り前のように、演劇鑑賞会をしましたね。私も巡回公演で駆け回り、社会とはかけ離れた生活を過ごしていました。なので、実はあまり昭和を感じていなかったかも知れません。

私達からすると、古いなあとか昭和だなあとか思う事が、若い子にとっては「レトロ」という言葉と共にとても新鮮に感じられているのは、何とも不思議な感覚をあててくれますね。昭和世代から見た大正時代もそんな感じだったのかしらね（笑）
桜さとし